



2024年をみことばと共に 聖書日課から



この日言葉をかの日に伝え W・リュティ小説教一日一章

W.リュティ著 井上良雄訳

バルトやトゥルナイゼンの盟友であり、20世紀を代表する名説教者の、アドベントから始まる力強く美しい小説教を、井上良雄氏の名訳で贈る。

A5変形判 684頁 定価6930円 僅少



主のよき力に守られて ボンヘッファー1日1章

村椿嘉信訳

その全著作から、御言葉への深い洞察に基づく慰めと希望に溢れた言葉を精選して366日に配列。一日一日を恵みの喜びに生きる力を与える。

四六判 684頁 定価5500円



信じつつ祈りつつ ボンヘッファー短章366日

D.ボンヘッファー著 小池創造訳

信仰と行動とが渾然一体をなす珠玉の告白的文章から短章366篇を選ぶ。み言葉を、日々祈りつつ戦う力の源泉とするための聖想集。

B6判 136頁 定価1540円 僅少

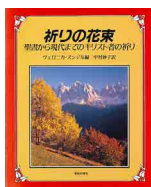


御言葉はわが足のともしび 日々聞く聖書と祈り

蓮見和男著

毎日、聖書を読み、み言葉に聞き、祈るための1日1ページの小説教と祈り366篇。旧新約全体に目配りがきき、巻末に問題別、教理別索引を付す。

四六判 420頁 定価3850円



祈りの花束 聖書から現代までのキリスト者の祈り

V.ズンデル編、中村妙子訳

聖書の祈りに始まり、教父、宗教改革者、近現代の哲学・文学者、キング牧師、マザーテレサらの祈り。各人の簡潔な伝記と肖像、イラスト付き。

B4変型判 126頁 定価3300円

● 10月刊行

不安という相棒

四つのタイプとどう向き合えばよいか

フリッツ・リーマン著／赤坂桃子訳 ◆四六判・定価 2970 円

不安は私たちの人生から除き去ることはできない。精神分析的視点から不安を四つのタイプに分類し、不安に対処し、良い人生を生きるために、より良い対処法を豊富な例証と共に記述。戦後ドイツのベストセラー。



● 10月刊行

イザヤ書註解 I

1-10 章

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳 ◆A 5判・定価 6820 円

イザヤ書註解は 1551 年に出版された、カルヴァンにとって初めての旧約註解である。精密かつ情熱的な記述から、改革者がヘブライ語の深い知識に基づいて、いかに真剣に預言書に取り組んだかが如実に伝わってくる。全 5 巻。



● 10月刊行

牧会書簡

現代新約注解全書

辻 学著

◆A 5判・定価 9900 円

牧会書簡と総称される「第一テモテ」「第二テモテ」「テトス」の 3 書簡は、パウロの名を借りたいわゆる偽名書簡である。この謎に満ちた書簡群を徹底的に読み解いた、世界最高水準の記念碑的注解書。邦語で類書に乏しい貴重な労作。



● 9月刊行

内村鑑三 闘いの軌跡

関口安義著

◆A 5判・定価 7975 円

近代日本の生んだ最大の思想家内村鑑三の闘いの生涯を描く。克明な文献調査と足を使った事実調査に基づいてその生涯をたどり、新たな光を当てる。なお著者は本書の校正中に急逝したため遺作となった。



宮平望著

旧約聖書預言書 要約と概説

好評の「要約と概説」シリーズ最終巻。全預言書の内容を簡潔に要約しポイントを示す。聖書通読と学習の伴侶に最適。 四六判・予価2400円

クリス・グリノフ著／薄井良子訳

クイア神学入門

レスビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー等々、ジェンダーやセクシュアリティの点で非規範的であることを表す「クイア」。それをめぐる多様な神学的冒険を解説した入門書。 四六判・予価2900円

松田央著

教会論と終末論

福音書が記すイエスの伝道活動を総括し、イエスが形成した弟子集団と教会の起源を検討。またヨハネ黙示録を通して終末論の本質を説明。福音と教会論と終末論を一体のものとして理解する。 四六判・予価2400円

鹿住輝之著

キルケゴールのキリスト論

従来キルケゴールの体系批判はヘーゲル批判と結びつけられてきたが、むしろハイペアやマーテンセンら同時代のヘーゲル主義者に向けられていた。彼らはデマーク社会が直面した自由主義的要求に各様に応答したが、キルケゴールは両者と異なっていた。その核心をキリスト論に見出し、その理路を説明した俊英の力作。 同時代のヘーゲル主義者との関係で

A5判・予価3800円

● 11月に出た雑誌、最近の重版など

内田樹著

レヴィナスの時間論

2刷

四六判・定価2860円

袴田巖著／袴田巖さんを救う会編

主よ、いつまでですか

6刷

無実の死刑囚・袴田巖獄中書簡 四六判・定価1676円

いのちの水

3刷

トム・ハーバー作、中村吉基訳、望月麻生絵
B6判・定価1650円

福音と世界

◆定価660円

12月号 アナーキーな共同体

寄稿者：ロマン・A・モンテロ、有住航、山下壮起、工藤万里江、矢野静明、対談（京大吉田寮・笹塚コミュニティ）／連載 今高義也、後藤里菜、飯田華子、金耿昊、長尾優、サンダース&ヤーバー、山崎ランサム和彦、山口陽一、勝村弘也

渡辺禎雄版画カレンダー

2024年版

絵柄は1984年の作品「よきサマリア人」。

◆定価660円



●最近毎日聴いているのはもちろんヒップホップ……ではなく、「それいけ！アンパンマン」のテーマ曲です。現一歳八ヶ月の子どもはいつしかアンパンマンの虜となり、持ち物もアンパンマン柄なら、パン屋で食べるのもアンパンマン、はては虚空にむかつて「アンパンマン……」と呟いているような状態。録画したアニメを見ると、テーマ曲に合わせ自分なりに踊っています。ただわたしは以前、原作者のやなせたかしが作詞した「愛と勇気だけがともだちさ」というあの曲がどうにも好きになれませんでした。作中で表現される愛や勇気がどうにも権力性を帯びて見え、その「正義のヒーロー像」が信じられなかったのです。ただ、今になって観直すと、少し違った印象も覚えます。実際その世界観は、他者を制圧する権力が正義を代表している現実とは、必ずしも同じではないでしょう。たとえば、アンパンマンは警察と違って取り締まりをおこないません。ばいきんまんはばいきんまんであるというただそれだけの理由から取り締まられたりしませんし、監獄に収容されたり奴隷化されたりすることはありません。時に生じる不和も含め、もれなく世界全体が、一種の必然性のもとに成り立っているようにも見えます。だとすれば、その

愛や勇気とは何か。わたしは今月で新教出版社を退職するのですが、このような問いを立てられるようになったのは、ここでの時間をつうじてキリスト教と出会い直せたからだと思っています。歴史的にも思想的にも無数の過ちを生み出してきたこの系譜のなかに、しかしほんとうのこともまた表現されていたのではないかと。そのような尽きない問いに出会えたことに感謝します。(堀)

●催事のお知らせです。『カール・バルト〈教会教義学〉の世界』の出版を記念して著者による講演会が行われます。

日時 2月23日(祝日) 午前10時30分～12時45分

会場 恵泉バプテスト教会(東京都目黒区中目黒3-13-29)

会費 1000円

主題講演 寺園喜基「バルト神学から現代を問う——寺園喜基が考えるバルト神学の現代的な意味(信仰、教会、国家、戦争等)」

質疑応答 吉田真司(相模原中央教会牧師、日本バプテスト連盟理事長、古川敬康(北星学園理事長・園長)、木村一充(栗ヶ沢教会牧師)

申込(高良研一宛) ファクス: 03-3712-9311 / メール: kenako.0901@gmail.com [締切1月31日]

小社後援

福音と世界

2024年 1

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・原子力と再生可能エネルギー

日本を救う洋上風力発電 —— 牛山泉

原発事故の健康被害について —— 津田敏秀

希望の道としての宮農和生太陽光発電 —— 近藤恵

信仰の証としての節電、そして応用問題 —— 木村護郎

私のもとに続くいのちのために —— 片岡輝美

福島のメッセージ —— 福嶋揚

死の力、いのちの力 —— 福嶋揚

【好評連載】

◆ 八木重吉の聖書 7 …………… 今高義也

◆ 神と「女性的なるもの」を辿って 8 …………… 後藤里菜

◆ グレート小林と3人の女 9 …………… 飯田華子

◆ 私は告白する、私の神を 10 …………… 長尾優

◆ 地域から考える在日朝鮮人史と教会史 10 …………… 金耿昊

◆ 教会におけるマイノリティ 21 …………… サンダース、ヤバー

◆ 「日本のキリスト教」を読む 24 …………… 山口陽一

◆ 新約釈義 ルカ福音書 25 …………… 山崎ランサム和彦

◆ 古代イスラエル文学史序説 35 …………… 勝村弘也